

2006年4月13日

# 2006年2月中間期業績、 及び通期業績見通し

**松下 正**

---

株式会社ファーストリテイリング  
取締役

取締役の松下です。

2006年2月中間期の業績と通期見通しについて、私からご説明させていただきます。

## 【連結】 2006年2月中間期 PL

2

**増収増益** 売上高： 2,386億円 (前年同期比+18.2%)  
 経常利益： 471億円 (前年同期比+30.2%)

単位：億円

	2005年2月中間期 実績	2006年2月中間期			
		期初予想	実績	前期比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	2,018 100.0%	2,327 100.0%	<b>2,386</b> 100.0%	+18.2%	+2.6%
<b>売上総利益</b> (売上比)	898 44.5%	1,077 46.3%	<b>1,124</b> 47.1%	+25.1% (+2.6p)	+4.3%
<b>販管費</b> (売上比)	545 27.0%	663 28.5%	<b>669</b> 28.0%	+22.7% (+1.0p)	+0.8%
<b>営業利益</b> (売上比)	353 17.5%	414 17.8%	<b>455</b> 19.1%	+28.7% (+1.6p)	+10.0%
<b>経常利益</b> (売上比)	362 18.0%	420 18.0%	<b>471</b> 19.8%	+30.2% (+1.8p)	+12.3%
<b>当期利益</b> (売上比)	213 10.6%	232 10.0%	<b>265</b> 11.1%	+24.3% (+0.5p)	+14.4%

まず連結の業績についてですが、売上高は2,386億円、前年同期比18.2%増、経常利益は471億円、前年同期比30.2%増の増収増益となりました。

期初予想に比べて、売上高は2.6%、経常利益は12.3%上回ることができました。

## 【連結】 営業利益率19.1% (+1.6p)

**売上高 2,386億円** (前年同期比 +18.2%)

連結子会社増加 ワンゾーン +100億円、ネルソン フィナンス +81億円  
国内ユニクロ事業 新規出店・既存店前年比増に伴う売上増 +148億円

**売上高総利益率 47.1%** (前年同期比 +2.6p)

国内ユニクロ事業の売上高総利益率の改善  
ネルソン フィナンス社の新規連結

**売上高販管費率 28.0%** (前年同期比 +1.0p)

新規連結子会社増 +90億円 国内ユニクロ事業 +25億円

**営業利益率 19.1%** (前年同期比 +1.6p)

まず連結の売上高ですが、ワンゾーン及びコントワー・デ・コトニエを展開するネルソン フィナンス社が連結対象に加わったこと、ならびに国内ユニクロ事業の新規出店などにより18.2%の増収となりました。

次に売上高総利益率ですが、47.1%と前年同期比で2.6ポイント改善いたしました。これは、主に国内ユニクロ事業の売上高総利益率が改善したことと、利益率の高いネルソン フィナンス社が連結に加わったことによります。

販管費は、前年同期比で124億円増えております。連結対象会社が増えたことによるものが90億円、国内ユニクロ事業の店舗増による経費増が25億円となっております。

営業利益率は、19.1%と、前年同期比で1.6ポイント改善いたしました。

## 【国内ユニクロ】 2006年2月中間期

### 増収増益を達成

単位:億円

	2005年2月中間期 実績 (旧FR単体)	2006年2月中間期 実績	
		(社内管理数値)	前期比
<b>売上高</b> (売上比)	1,998 100.0%	2,146 100.0%	+7.4%
<b>売上総利益</b> (売上比)	889 44.5%	998 46.5%	+12.3% (+2.0p)
<b>販管費</b> (売上比)	534 26.8%	559 26.1%	+4.7% (-0.7p)
<b>営業利益</b> (売上比)	354 17.7%	438 20.4%	+23.9% (+2.7p)

社内管理数値は、旧㈱ファーストリテイリング単体の2ヶ月間の実績(2005年9月1日～2005年10月31日)と、持株会社である㈱ファーストリテイリングと㈱ユニクロの4ヶ月間の実績(2005年11月1日～2006年2月28日)を合算したもものから、㈱ファーストリテイリングの商業施設事業の収入および経費を除いたものです。旧㈱ファーストリテイリング事業に比較対照できるご参考数値です。

次に国内ユニクロ事業について、ご説明します。

2005年11月1日より持株会社体制に移行しておりますため、国内ユニクロ事業の数値につきましては社内管理数値を表示しております。

スライドに示されておりますように、国内ユニクロ事業の売上高は2,146億円、前年同期比7.4%増、営業利益では438億円、前年同期比23.9%増の増収増益を達成しております。

## 【国内ユニクロ】 増収の要因

ユニクロ直営店 前年同期比24店舗増 (期末677店舗)

既存店売上高 前年比 +0.5% (上期計画 前年比 0.0%)

客数 前年比 1.4%

- ・ 前年上期の客数増(+3.4%)の反動
- ・ 10月の秋物の不調、1月の冬物欠品

客単価 前年比 +2.0%

- ・ 消費税総額表示による影響の一巡
- ・ 防寒衣料をはじめとした比較的単価の高い商品が好調

既存店 前年比増減率	2005年8月期		2006年8月期
	上期	下期	上期
売上高	+0.6%	+1.9%	+0.5%
客数	+1.2%	+3.4%	1.4%
客単価	0.6%	1.5%	+2.0%

F C店 19店舗、小型専門店(BODY by UNIQLO 3店舗 ユニクロキッズ 2店舗)を除く

国内ユニクロ事業の増収の要因は店舗数が24店舗増加したこと、既存店売上高がプラスになったこと、そして大型店を中心とする新店の売上が順調に推移したことによるものです。

この中間期のユニクロ直営店の出退店の実績は、出店39店舗、退店26店舗、純増13店舗、期末677店舗と、ほぼ計画通りとなりました。

既存店売上高は、前年比0.5%増となりました。これは期初計画の0.0%の予想を若干上回るものです。

この内訳は、客数がマイナス1.4%、客単価がプラス2.0%です。

客数の減少は、前年上期の客数増の反動、気温が高く、秋物の動きが悪かった10月、冬物の欠品がめだった1月の影響によるものです。

客単価は消費税総額表示の影響の一巡、厳冬のために防寒衣料が売れたこと、カシミアやヒートテックインナー、こだわり感のあるメンズの新しいジーンズなど比較的単価の高い商品が売れたことにより前年比2.0%増となりました。

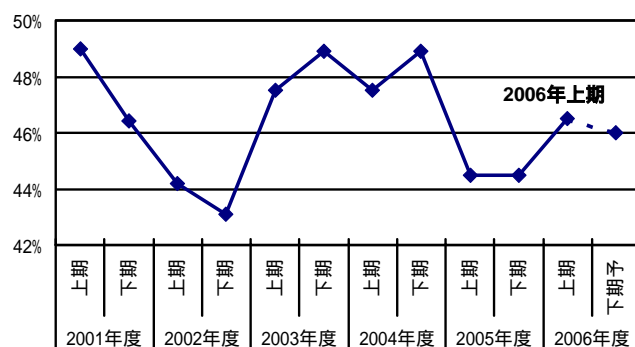
## 【国内ユニクロ】 売上高総利益率

売上高総利益率 46.5% 前期比 +2.0ポイント

需要動向を見極めた的確な商品発注

年末商戦好調による値下げロスの縮小

国内ユニクロ 売上高総利益率のトレンド(半期ベース)



次に国内ユニクロの売上高総利益率ですが、46.5%と、前年同期比2.0ポイント改善し、期初計画の46.0%も上回ることができました。

改善の主な要因としては、需要動向を見極めた的確な商品発注を実施したこと、好調な年末商戦に伴い値下げロスが縮小したことがあげられます。

## 【国内ユニクロ】 販管費

7

### 売上高販管費比率 0.7ポイント改善

改善要因 広告宣伝費： 効率的な販促活動

人件費： 店舗における人件費のコントロール

悪化要因 賃借料： ショッピングセンターへの出店に伴う賃借料増

単位：億円

	05/2中間期		06/2中間期			
	旧FR単体	(売上比)	社内管理数値	(売上比)	増減	(売上比)
販管費合計	534	26.8%	559	26.1%	+25	0.7p
人件費	189	9.5%	200	9.4%	+11	0.1p
広告宣伝費	111	5.6%	100	4.7%	11	0.9p
賃借料	127	6.4%	139	6.5%	+12	+0.1p
減価償却費	8	0.4%	10	0.5%	+1	+0.1p
その他	97	4.9%	108	5.1%	+10	+0.2p

販管費は、前年同期比25億円増加しておりますが、対売上高比率では0.7ポイントの改善となっております。

改善の要因は、効率的な販促活動、店舗における人件費のコントロールによるものです。一方、都心ビルイン型やショッピングセンター型の店舗が増えているため、賃借料は売上高比率でも増加しております。

## 【連結】2006年2月中間期連結対象会社 PL

単位:億円

	連結		ワンゾーン		ネルソン フィナンス	
		売上比		売上比	[仏国]	売上比
連結対象期間	05/9 ~ 06/2		05/9 ~ 06/2		05/9 ~ 06/2	
売上高	2,386	100.0%	100.2	100.0%	81.9	100.0%
経常利益	471	19.8%	3.6	3.7%	24.3	29.8%
特別損益	7	0.3%	1.4	1.4%	0.1	0.2%
当期純利益	265	11.1%	2.7	2.7%	14.2	17.4%
	ナショナルスタンダード		アスペジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD	
		売上比		売上比		売上比
連結対象期間	05/6 ~ 05/11		05/9 ~ 06/2		05/9 ~ 06/2	
売上高	4.0	100.0%	4.8	100.0%	持分法適用関連会社	
経常利益	0.3	7.7%	0.6	13.0%	3.0	2
特別損益	0.2	7.2%	0.1	4.0%		
当期純利益	0.6	15.4%	0.8	17.0%		

- 2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。2006年2月中間期の業績では2005年11月以降のみが反映されています。
- 営業外収益として、㈱リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益(05/9 ~ 06/2)」3.0億円が計上されています。
- コントワー・デ・コトニエ ジャパンの業績は、2006年8月期の下期から連結業績に反映される予定です。

つぎに、連結対象会社の中間期の業績についてご説明いたします。

ワンゾーンの中間期の業績は、不良在庫処分のため売上高が計画を若干下まわり、3.6億円の経常赤字となりました。

「コントワー・デ・コトニエ」ブランドを展開する、ネルソン フィナンス社の中間期の業績は、秋冬コレクションが成功したこと、納品のしくみを改善して販売機会ロスが軽減されたことなどにより、前期比で約4割の増収となり、利益率も改善しました。

また、今期より連結対象となりましたアスペジ・ジャパンの中間期の業績は、ほぼ計画通りとなっております。

ナショナルスタンダードに関しましては若干の赤字となっておりますが、2006年3月に解散を決議しており、6月頃までに清算手続きを完了する予定です。

なお、持分法適用関連会社である、リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益」は期初予想の4.9億円から3.0億円となりました。

期初計画を下回っている理由は、リンク社に対する持分比率が35.2%から34.0%に下がったこと、同社の当期利益が期初計画に対して減額修正したことによるものです。



## 【連結】2006年2月中間期 海外ユニクロ事業<sup>9</sup>

**売上高 45億円 経常損益 2億円**

2005年秋に進出した韓国・香港事業が好調

英国、中国事業は計画通り

米国事業は計画未達

単位:億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	05/9 ~ 06/2		05/7 ~ 05/12		05/9 ~ 06/2		05/9 ~ 06/2		05/9 ~ 06/2	
売上高	13.9	100.0%	8.2	100.0%	4.6	100.0%	12.3	100.0%	6.5	100.0%
営業利益	0.0	0.5%	0.1	1.4%	3.8	82.7%	0.2	2.2%	1.3	20.5%
経常利益	0.0	0.5%	0.1	1.3%	3.9	83.6%	0.2	1.9%	1.3	21.0%
特別損益	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
当期純利益	0.0	0.5%	0.1	1.3%	3.9	83.6%	0.2	1.9%	1.1	17.9%

2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。2006年8月期の上期の業績では2005年11月以降のみが反映されています。

続きまして、海外のユニクロ事業の業績についてご説明いたします。

2005年秋に進出しました、韓国・香港事業の中間期の業績は売上高・利益ともに計画を上回っております。

英国・中国事業はほぼ計画どおりの数値を達成しております。

秋に進出いたしました米国事業につきましては、売上・利益ともに計画を下回っております。この対策については、のちほど執行役員のデイカスより別途ご説明させていただきます。

## 【連結】 2006年2月末 BS

単位:億円

	2005年8月末	2006年2月末	増 減
総資産	2,728	<b>3,354</b>	+626
流動資産	1,800	<b>2,318</b>	+517
固定資産	927	<b>1,036</b>	+108
負債	853	<b>1,245</b>	+392
少数株主持分	51	<b>69</b>	+18
株主資本	1,823	<b>2,039</b>	+215

次に連結のバランスシートのご説明をさせていただきます。

2005年8月末との比較では、流動資産が517億円増加、固定資産が108億円増えたことから、全体の総資産は3,354億円と626億円の増加となりました。

バランスシートの詳細については、次のスライドでご説明をさせていただきます。

## 【連結】BSのポイント (2005年8月末比較)

**現金・預金及び有価証券 +352億円 (1,210億円 1,562億円)**

- 【国内ユニクロ】 営業キャッシュ・フロー

**たな卸資産の増加 +13億円 (335億円 349億円)**

- 【国内ユニクロ】 24億円 【新規海外ユニクロ】 +5億円 【ワンゾーン】 +12億円  
- 【プティ ヴィクル社】 貸借対照表の新規連結 +22億円

**無形固定資産の増加 +68億円 (171億円 240億円)**

- プティ ヴィクル社取得による営業権 52億円

**有利子負債 +70億円 (61億円 131億円)**

- プティ ヴィクル社買収の際のユーロ建て長期借入金 61億円

**繰延資産ヘッジ(為替予約)勘定増加 +120億円 (117億円 238億円)**

- 【国内ユニクロ事業】 円安進行に伴うもの。損益への影響なし

資産勘定(為替予約)と負債勘定(為替予約繰延ヘッジ利益)の両建て計上

バランスシートの2005年8月末との対比の主なポイントについてご説明します。

まず、現預金及び有価証券の合計額は、8月末比352億円増加しております。これはおもに営業キャッシュ・フローによるものです。

次に、たな卸資産が、8月末比13億円増加しております。国内ユニクロは冬物の売上が好調だったことから、在庫は24億円減少しております。連結の在庫が増えた理由としては、プティ ヴィクル社、米国・韓国・香港などの新規連結対象会社の増加、ワンゾーンの在庫増加によるものです。ワンゾーンの8月末の在庫はセールにより不良在庫を一掃したため低い水準にとどまっておりましたが、2月末は適正な水準になっております。

無形固定資産は、8月末比68億円増加しております。このうち52億円はプティ ヴィクル社取得による営業権の増加です。

有利子負債は、70億円増加しております。これはプティ ヴィクル社買収のためのユーロ建て長期借入金の増加によるものです。

最後に、為替予約に伴う繰延資産ヘッジ勘定が、120億円増加しております。これは、円安の進行に伴い、為替予約の含み益が増加したものであり、損益への影響はありません。

【Notes】

連結たな卸資産は前年2月末比で 6億円 (356億 349億)

内訳は 国内ユニクロ 87億円、

新規連結分 (OZ +33億円、PV +22億円、NF +19億円、米国・韓国・香港 +5億円)

## 【連結】 2006年8月期 通期業績予想

単位:億円

	2005年8月期	2006年8月期			
	実績	期初予想	新予想	前年比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	3,839 100.0%	4,350 100.0%	<b>4,449</b> 100.0%	+ 15.9%	+ 2.3%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,702 44.3%	2,020 46.4%	<b>2,087</b> 46.9%	+ 22.6% (+ 2.6p)	+ 3.3%
<b>販管費</b> (売上比)	1,135 29.6%	1,340 30.8%	<b>1,383</b> 31.1%	+ 21.8% (+ 1.5p)	+ 3.2%
<b>営業利益</b> (売上比)	566 14.7%	680 15.6%	<b>702</b> 15.8%	+ 24.0% (+ 1.0p)	+ 3.4%
<b>経常利益</b> (売上比)	586 15.2%	690 15.9%	<b>723</b> 16.3%	+ 23.4% (+ 1.0p)	+ 4.8%
<b>特別損益</b> (売上比)	5 0.2%	9 0.2%	<b>12</b> 0.3%	( - ) ( - )	( - )
<b>当期純利益</b> (売上比)	338 8.8%	379 8.7%	<b>400</b> 9.0%	+ 18.0% (+ 0.2p)	+ 5.5%

次に、2006年8月期の連結業績見通しについてご説明します。

売上高は4,449億円、前期比15.9%増、経常利益は723億円、前期比23.4%増、当期利益は400億円、前期比18.0%増を計画しています。

## 【国内ユニクロ】 2006年8月期 通期業績予想

単位:億円

	2005年8月通期 実績 (旧FR単体)	2006年8月通期 (社内管理数値)			
		期初予想	新予想		
				前年比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	3,653 100.0%	3,880 100.0%	<b>3,922</b> 100.0%	(+7.4%)	+ 1.1%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,625 44.5%	1,786 46.0%	<b>1,815</b> 46.3%	(+11.7%) (+ 1.8p)	+ 1.7%
<b>販管費</b> (売上比)	1,054 28.9%	1,139 29.4%	<b>1,132</b> 28.9%	(+7.5%) (+ 0.0p)	0.5%
<b>営業利益</b> (売上比)	571 15.6%	646 16.6%	<b>682</b> 17.4%	(+19.5%) (+ 1.8p)	+ 5.7%

社内管理数値は、旧㈱ファーストリテイリング単体の2ヶ月間の実績(2005年9月1日～2005年10月31日)と、持株会社である㈱ファーストリテイリングと㈱ユニクロの4ヶ月間の実績(2005年11月1日～2006年2月28日)を合算したのから、ファーストリテイリングの商業施設事業の収入および経費を除いたものです。旧ファーストリテイリング事業に比較対照できるご参考数値です。

国内ユニクロの通期の業績予想については、売上高で3,922億円、前期比7.4%増、営業利益は682億円、前期比19.5%増です。

# 【国内ユニクロ】 2006年8月期予想 国内ユニクロ事業前提条件

14

	2005年8月期 実績			2006年8月期 予想			前期比		
	売上高	3,653 億円			3,922 億円			+ 7.4%	
既存店伸び率	+ 0.6%			+ 0.3%			0.3p		
売上高総利益率	44.5%			46.3%			+ 1.8p		
通期	44.5%			46.3%			+ 1.8p		
上期(実績)	44.5%			46.5%			+ 2.0p		
下期(予想)	44.5%			46.0%			+ 1.5p		
出退店数(直営店)	出店	退店	純増	出店	退店	純増	出店	退店	純増
通期	69	31	+38	74	41	+33	+5	+10	5
上期(実績)	41	14	+27	39	26	+13	2	+12	14
(店舗) 下期(予想)	28	17	+11	35	15	+20	+7	2	+9

上記直営店の出退店数には、小型専門店(ウィメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」など)は含まれていません。

下期の国内ユニクロ事業の業績予想の前提条件としては、既存店伸び率横ばい、粗利益率46.0%で前期比1.5ポイントの改善、出店35店舗、退店15店舗となっております。下期の業績予想については期初計画に比べて変更はしてありません。

## 【連結】 2006年8月期 通期 連結対象会社別 業績予想

単位:億円

連結対象期間	連結		ワンゾーン		FRフランス	
	05/9~06/8	売上比	05/9~06/8	売上比	05/9~06/8	売上比
売上高	4,449	100.0%	240.0	100.0%	184.3	100.0%
売上総利益	2,087	46.9%	98.1	40.9%	-	-
販管費	1,383	31.1%	97.9	40.8%	-	-
営業利益	702	15.8%	0.2	0.1%	41.0	22.2%
経常利益	723	16.3%	0.3	0.1%	36.8	20.0%
当期純利益	400	9.0%	0.7	0.3%	23.5	12.7%

連結対象期間	コントワー・デー・コトニエ ジャパン		アスバジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD	
	05/9~06/8	売上比	05/9~06/8	売上比	05/9~06/8	売上比
売上高	3.0	100.0%	8.4	100.0%	持分法適用関連会社	
売上総利益	-	-	5.0	59.5%		
販管費	-	-	6.4	76.2%		
営業利益	1.7	56.3%	1.4	16.7%		
経常利益	1.7	56.3%	1.4	16.7%	6.4	3
当期純利益	1.7	56.3%	1.7	20.2%		

- 2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。2006年8月期業績では2005年11月以降のみが反映されています。
- フランス事業の持株会社であるFRフランスの数値には、ネルソン フィナンス社、「プリンセス タム・タム」を展開するプティ ヴィクル社などが含まれています。
- 営業外収益として、㈱リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益(05/9~06/8)」6.4億円の計上を予想しています。

次に、主な連結対象会社で通期の予想数字を変更したものについてご説明いたします。

まずワンゾーンですが、売上高予想は250億円から240億円に、経常利益は4.3億円から0.3億円に修正いたしました。中間期には、約200店舗にて「フットパーク」への改装を進め、3月には3店舗の新規出店をおこない、下期から増収を予想しております。

フランス事業の持株会社であるFRフランスの数値には、ネルソン フィナンス社と、2006年2月に買収を終了したランジェリーブランド、プリンセス タム・タムを展開するプティ ヴィクル社の数値が含まれています。従いまして、下期の業績予想には、プティ ヴィクル社の半期分の売上高43億円と経常利益4億円が反映されています。

2006年2月より出店を開始したコントワー・デー・コトニエ・ジャパンの業績は前回の予想数値から売上高の下方修正をおこなっております。その理由としては、春の出店数が10店舗の予想から5店舗になったこと、一店舗あたりの売上が計画に達していないことです。

## 【連結】2006年8月期 通期 海外ユニクロ事業子会社別 業績予想

売上高 82億円 経常損益 7億円

単位:億円

	UNIQLO(U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	05/9~06/8		05/7~06/6		05/9~06/8		05/9~06/8		05/9~06/8	
売上高	23.0	100.0%	15.9	100.0%	9.0	100.0%	25.4	100.0%	9.2	100.0%
経常利益	0.1	0.4%	0.3	1.9%	10.0	-	0.4	1.5%	1.4	14.9%
当期純利益	0.1	0.4%	0.3	1.9%	10.0	-	0.3	1.3%	1.1	12.3%

2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。2006年8月期の上期の業績では2005年11月以降のみが反映されています。

次に、海外ユニクロ事業の業績予想数字を変更したものについてご説明いたします。

まず中国事業については、この秋に出店した北京の不振により、利益を修正しております。

米国事業については、売上高を修正するとともに、2006年秋のニューヨーク、マンハッタンでの旗艦店出店コストを加味した結果、10億円の赤字を見込んでいます。

韓国・香港事業については、好調な売上により、通期では黒字を見込んでおります。



## 【配当金】

2006年8月期 中間配当金 65円  
(通期 130円を予定)

年間配当性向(連結ベース) = 33.1%

	2005年8月期(実績)			2006年8月期(予定)		
		中間	期末		中間	期末 (予定)
1株配当金	130円	65円	65円	130円	65円	65円
配当性向(連結)	39.0%			33.1%		

2006年2月期の中間配当金は、期初予定どおり一株あたり65円といたします。  
2006年8月期通期の一株あたり配当金は、130円を予定しております。  
配当性向は33.1%を予想しております。

<ご参考> **2006年8月期 連結対象会社別出退店** 18  
**中間期実績・通期予想**

	2005年 8月期末	2006年2月 中間期				2006年8月 通期(予想)			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	693	62	27	+35	728	97	46	+51	744
国内ユニクロ事業:	679	48	26	+22	701	78	41	+37	716
直営店 <sup>1</sup>	664	44	26	+18	682	74	41	+33	697
除く、小型専門店	664	39	26	+13	677	74	41	+33	697
小型専門店	-	5	0	+5	5	-	-	-	-
FC	15	4	0	+4	19	4	0	+4	19
海外ユニクロ事業:	14	14	1	+13	27	19	5	+14	28
英国:	6	2	0	+2	8	2	2	0	6
中国: <sup>2</sup>	8	2	1	+1	9	2	2	0	8
米国:	-	4	0	+4	4	4	1	+3	3
韓国:	-	5	0	+5	5	10	0	+10	10
香港:	-	1	0	+1	1	1	0	+1	1
ワンゾーン	329	0	3	3	326	4	3	+1	330
ネルソン フィナンス[フランス]	200	18	1	+17	217	38	0	+38	238
ナショナルスタンダード <sup>2</sup>	10	1	1	0	10	1	11	10	0
コントワール・コトエ ジャパン	-	1	0	+1	1	5	0	+5	5
アスベジ・ジャパン	13	0	5	5	8	0	6	6	7
プティ ヴィクル[フランス]	-	-	-	-	91	10	1	+9	100
総合計	1,245	82	37	+45	1,381	155	67	+88	1,424

- 1 上記ユニクロ直営店の予想出退店数には、小型専門店(ウィメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」など)は含まれていません。  
2 決算期が異なるため、2006年中間期末のユニクロ中国事業の店舗数は12月末、ナショナルスタンダードは11月末となります。

最後に、ご参考として、中間期末の店舗数と、2006年通期の出退店店舗数の予想の一覧表を添付しておりますのでご参照ください。

以上をもちまして、私のほうからのご説明を終わります。

ありがとうございました。